

【モータースポーツコラム】

筆者：浅見 理美

新型コロナウイルスの影響を受けている、国内外のモータースポーツ。国によってもその対応は異なるが、日本では入国の際に一定の隔離期間を設けなければならず、世界耐久選手権(WEC)などの海外レースに参戦するドライバーは、例年にない窮屈さを強いられている。スケジュールの関係上、国内のシリーズ戦を欠場しなければならないケースもあり、全日本スーパーフォーミュラ選手権(SUPER FORMULA、以下SF)は今シーズンのチャンピオンシップにおいて有効ポイント制度を採用することになった。

そんななかで注目を集めているのが、スポット参戦ドライバーたちの存在だ。F1でも第4・5戦のシルバーストン2連戦に加え、先日の第11戦アイフェルGPでレーシングポイントから代役参戦したニコ・ヒュルケンベルグの活躍は大きく報じられた。SFで言えば、外国人ドライバーの数名は入国制限によりシーズン序盤の参戦がかなわず。さらにWECに参戦している中嶋一貴選手、小林可夢偉選手、山下健太選手が、第2戦は一定の自主隔離期間がとれないことから欠場、全19名のエントリーのうち、なんと6名がスポットドライバーだった。



シリーズチャンピオンをかけて戦うドライバーはもちろん、そのドライバーを応援しているファンにとってもレギュラードライバーの欠場は非常に残念ではあるが、その一方で“新たなドライバーの活躍”という、違った楽しみを見つけることもできる。実際、岡山国際サーキットで行われたSF第2戦では、彼らの走りに光るものがあった。

SFと併催されている全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権(以下SFL)に参戦している宮田莉朋選手と阪口晴南選手は、それぞれ中嶋選手、山下選手の代役としてエントリー。この週末SFLは2レースが行われたため、2人は1つのレースウィークで3つのレースを戦うという、非常にあわただしいスケジュールになっていた。阪口選手は2カテゴリーで所属チームも変わるため、短いインターバルの間に急いでピットを往復する姿も見られた。わずかな時間で頭と心と体のスイッチを切り替え、コックピットに収まる様は、とても2カテゴリーをこなしているようには見えないほどだった。



SFLで所属するTOM'Sチームからエントリーした宮田選手は、公式予選ではレギュラードライバーたちを差し置いて予選2位を獲得。これが国内トップカテゴリーのデビューレースかと思うほどのポテンシャルの高さを見せた。決勝ではスタートで後続集団に飲まれてしまい順位を下げ、9位でフィニッシュ。予選位置からすれば満足のできない結果だろうが、レースでの強さは経験の蓄積を要する。所謂引き出しの数だ。「与えられたマシンを速く走らせる」という点で、宮田選手はライバルたちから一目置かれる存在になったはずだ。

阪口選手は、宮田選手よりも一足先に、昨年SFデビューを果たしている(決勝レースが中止となってしまったため、厳密に言えばまだかもしれないが)。その際にも印象的な速さを見せていたため注目されたが、予選は11位。決勝レースではフォーメーションラップ中にクラッシュを喫してしまい、スタートすることなく戦列を離れることになった。直前に行われたSFLレースではライバルの宮田選手をかわしてシーズン1勝目を飾っていただけに、SFで2人がどんな戦いを見せるのか期待していたファンも多かったに違いない。



他にも、中山雄一選手、塚越広大選手、笹原右京選手、高星明誠選手といったSUPER GTでも活躍するドライバーたちが、このチャンスで自身の力を示すために懸命に戦っていた。残念ながら上位入賞とはならなかったが、彼らのフィードバックはそれぞれのチームに新しい力をもたらしたはずだ。

近年、複数のカテゴリーに参戦するドライバーは増えたものの、国内レースであれば各カテゴリーがお互いに調整し、また海外の主要レースのスケジュールと照らし合わせながらカレンダーの限られた週末に大会を落とし込んでいた。故に、スポット参戦のドライバーが活躍できる場はほんのわずかだった。しかしコロナ禍で、レースが重なること以外にも様々な理由で欠場せざるを得ないケースが増えてきた。この厳しい時期をチャンスに変えて、輝く場所をつかみ取れるドライバーが現れるかもしれない。その期待を心の隅に忍ばせながら、今シーズン残るレースの行方を見ていきたいと思う。





(プロフィール)

浅見理美(あさみ さとみ)／神奈川県出身 1984年生まれ

モータースポーツジャーナリストの父親に連れられ、幼少期からサーキットを遊び場としていたが、興味を持ち始めたのは高校生の頃。父と同じくジャーナリストとなるべく、大学生のころからサーキットをかけ回る。在学中は、当時同世代のドライバーたちがステップアップを目指して戦う全日本F3選手権(現在のSFL)を中心に取材。現在はSFLに加えてSUPER GT、SUPER FORMULAでも取材・執筆活動を行っている。

